

価値共創の仕組みを通した SDGsの実践と課題

商学部
経営・流通学科
准教授

侯 利娟



研究シーズの紹介

本研究は、中国のアントフォレストの取り組みを考察することにより、企業と顧客の価値共創の可能性について明らかにした。

アントフォレストは中国の最大手IT企業アリババグループが手掛けたゲームの一つである。バーチャル苗木を携帯ゲームで育て、最終的には本物の木として寄付した砂漠等に植えることができる。

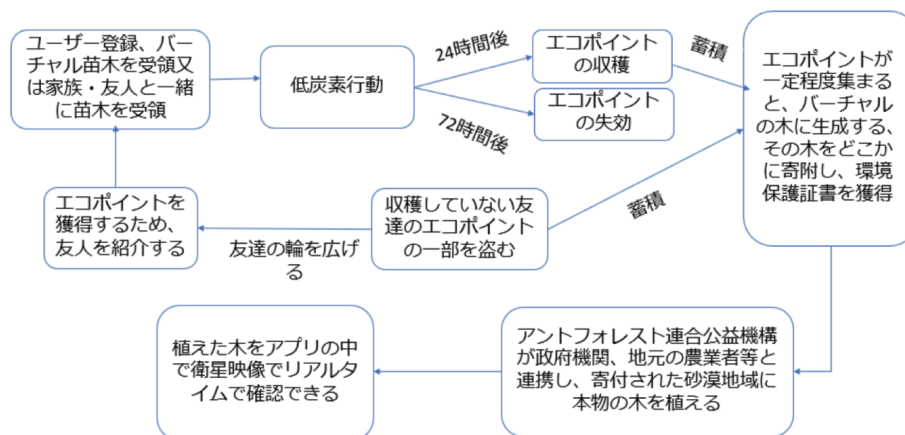
2016年から2021年8月までに、6億人を超えるユーザーが参加し、3億2,600万本以上の樹木が植樹された。全国各地で木の植樹管理に関わった農牧民が20億円以上の収益を得ている。この取り組みは国連の最高環境賞と言われている「チャンピオン・オブ・ザ・アース」や「2019年国連グローバル気候アクションアワード」も受賞した。



デジタルプラットフォームの活用により人々が日常生活の中で環境に優しい行動を起こせる仕組み

- このようなデジタルプラットフォームを活用し、企業と顧客の価値共創取り組みがさらに広がるとよりSDGsへの実践に繋がる。

アントフォレストの運営仕組み



期待される活用シーン

- 商品やサービスを通じて社会や環境に貢献したい



デジタル共同参加プラットフォームを提供することでユーザーの望みを実現することで新たな価値を提供する

- Z世代へのマーケティングアプローチをしたい



商品やサービスを提供するとともに、社会・文化的な価値を同時に提供できるような仕組み構築